

# データプライバシーの新たな パラダイム：カリフォルニア州 消費者プライバシー法

## 重要な統計データ

- 世界の消費者の69%が、データ保護を重視しない企業があればその企業をボイコットしようと思っていると回答
- 62%が、データ侵害の最大の責任はハッカーよりも企業にあると回答
- 米国の消費者の83%が、データ侵害や重大なインシデントが発生した企業への支出を数か月は控えるという回答
- 米国の消費者の21%が、データ侵害事件を起こしたブランドは二度と利用しないと回答<sup>1</sup>

コンプライアンスへの準備を整え、顧客からの信頼を高めながら組織のリスクを減らす

## カリフォルニア州居住者の個人情報保護するプライバシー法の制定

個人にプライバシー権を付与し、自分の個人情報の取り扱いを管理する能力を強化することを目的に世界中で個人情報保護法が施行される中、米国でもカリフォルニア州消費者プライバシー法 (CCPA) が制定されました。

CCPAでは、消費者に自分の個人データに関する権利を付与し、その権利を行使した個人を事業者が差別することを禁止しています。消費者には、事業者が収集する自分の個人情報の種類、内容、利用目的を知る権利が与えられます。また、収集された自分の個人情報の削除を事業者に依頼する権利、あるいは自分の個人情報を第三者に売却しないことを要求する権利も与えられます。さらにCCPAでは、収集する情報の性質に見合った妥当なデータセキュリティ手順／ポリシーを導入して維持することを事業者にも義務づけています。加えて、カリフォルニア州データ侵害通知法の対象となる個人情報不正アクセスにつながる義務違反が発生した場合は私的訴権が認められ、事業者には多額の損害賠償金の支払い義務が生じる場合があります。

## データプライバシーに関する主な考慮事項

企業のプライバシー責任者とセキュリティチームは、自動化ツールを導入して、データプライバシー対応を効果的に管理する必要があります。個人情報の識別／特定／評価、業務部門・プライバシー部門・IT部門間の協力と連携の促進、個人情報の効果的な保護と監視を十分に行えないことに、多くのプライバシー責任者が不満を持っています。

インフォマティカのデータプライバシーソリューションは、データプライバシーに関する規制に対応し、消費者の信頼を獲得する基盤となります。コンプライアンス要件を事前対応的に管理することで、企業はデータリスク（データの誤用や損失など）を修正および監視でき、関係者はプライバシー対応、監査、レポートに関して効果的に連携できます。

<sup>1</sup> <https://www.infosecurity-magazine.com/news/fifth-consumers-never-return>

インフォマティカのデータプライバシーソリューションによって (1) データガバナンスポリシーの管理、(2) 個人データと機密データの探索と管理、(3) アイデンティティと個人データのマッピング、(4) データリスクの分析と追跡、(5) 個人情報の保護とデータ主体/同意要求の管理、(6) プライバシー進捗状況の追跡、プライバシー対策/ステータスの伝達を継続して実行することが可能になります。

CCPAに準拠するには、インテリジェンスと個人データのセキュリティを強化して、CCPAで定められた権限と保護をカリフォルニア州 (CA) 居住者に提供する必要があります。下表に、CCPAを遵守する上で対応すべきデータインテリジェンスとセキュリティの主な問題を示します。

データプライバシーのニーズ	対応
1. CA居住者の個人データの処理方法を定める (データガバナンスポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>CA居住者の個人データの定義を規定する</li> <li>収集するデータとその利用方法を定義する</li> </ul>
2. CA居住者の個人データの保存場所を確認する (個人データの探索と分類)	<ul style="list-style-type: none"> <li>CA居住者の個人データ (特にカリフォルニア州法に基づいてデータ侵害通知の対象となるデータ) の保存場所を正確に特定する</li> </ul>
3. アイデンティティレジストリを作成する (CA居住者のアイデンティティを個人データに結び付ける)	<ul style="list-style-type: none"> <li>CA居住者からの権利要求に迅速に対応する</li> <li>組織内のデータ配信先を迅速に参照する</li> </ul>
4. CA居住者の個人データの保護方法を定める (CA居住者のデータセキュリティリスクを分析する)	<ul style="list-style-type: none"> <li>CA居住者のデータの誤用や不正アクセスのリスクを把握して、データ (特にカリフォルニア州法に基づいてデータ侵害通知の対象となるデータ) の優先順位を決定し、改善措置を計画する</li> <li>CA居住者のデータの種類に応じて必要なセキュリティを特定する</li> </ul>
5. CA居住者の個人データを保護し、権利要求に対応する (データセキュリティ、権利処理)	<ul style="list-style-type: none"> <li>データの削除や売却に関する要求に対応する</li> <li>CA居住者のデータを運用、開発/テスト、分析の各環境で保護する</li> </ul>
6. 進捗を追跡して、現在のCCPAプライバシー対応状況を把握する (測定、伝達、コラボレーション)	<ul style="list-style-type: none"> <li>状況確認の要求に応える</li> <li>CCPAプログラムの進捗状況を追跡する</li> </ul>

## インフォマティカについて

デジタルトランスフォーメーションによって我々の期待値が変化しています。より良いサービスを、素早く、便利に、低コストで利用したいという期待が高まっているのです。企業も状況に応じて変化する必要があります。そしてそのヒントは「データ」にあります。

エンタープライズ向けクラウドデータ管理で世界をリードするインフォマティカは、俊敏性の向上、新たな成長機会の獲得、新しいソリューションの開発を実現するための洞察を通じて、あらゆる産業や分野の企業がインテリジェントにビジネスをリードできるよう支援します。インフォマティカは、あらゆるデータを徹底的に重視し、企業の成功に必要なとされる汎用性を提供します。

インフォマティカは、企業がこれからのインテリジェントな破壊的イノベーションを推進できるよう、当社が提供するあらゆるサービスを通じてデータの力を継続的に引き出すことを支援します。

AIと業界先進のインテリジェントデータプラットフォームを搭載したInformatica Data Privacyは、CCPAに定められたデータ中心の原則をサポートする次のような機能を提供します。

### 1. ガバナンスポリシーの定義と管理

データガバナンスで業務部門とIT部門のポリシー、責任、プロセス、データ用語を定義、文書化、測定します。Axon™ガバナンス タスク フレームワークと視覚的なワークフローにより、重要な業務担当者や関係者と、それぞれが担当するデータやプロセスを特定できます。

### 2. 個人データと機密データの探索、分類、把握

AIを活用して個人情報資産およびメタデータのビューと分析を全社規模で確立することにより、すべてのデータ環境（マルチクラウド、Hadoop、リレーショナル/ファイルストレージシステム、非構造化データ、構造化データ）を迅速に探索、分類、把握できます。

### 3. アイデンティティのマッピング

データ主体レジストリによってアイデンティティを個人データに結び付けることで、どの個人データがどの個人（顧客、従業員など）に属するのかを迅速に把握できるようになります。これはデータ主体のアクセス権をサポートし、同意管理システムに統合されます。

### 4. データリスクの分析、保護計画の策定

個人情報のリスク（誤用や損失の可能性）を分析して、カスタマイズ可能なリスク影響モデルを作成することで、改善措置の優先順位を決定し、リソースと投資を効果的に割り当てることができます。リスクを継続的に測定および記録して、プライバシー保護プログラムのための主要リスク指標を獲得できます。

### 5. データの保護、データ主体の権利と同意の管理

個人情報を匿名化/偽名化して、顧客と従業員の個人情報のアクセスと表示を制御します。リネージ、履歴、データ保持期間を取り込んで文書化することでデータ主体と同意に関する360度ビューを構築し、ワークフローとアクションを通じてデータ主体の権利をサポートします。

### 6. 測定、伝達、監査対応

豊富な視覚化機能を通じて、意思決定者には広範なインテリジェンスを、プライバシー担当者に詳細なビューを提供することができます。また、個人データに関する詳細情報を迅速に提供して、監査要件に対応し、プライバシー保護プログラムを管理・追跡できます。



〒105-6226 東京都港区愛宕2-5-1 愛宕グリーンヒルズMORIタワー26階 電話：03-6403-7600(代表) FAX：03-3433-1021

IN08\_0419\_03601